療法名 **大腸癌SOX100**

適応 大腸癌

抗癌剤適応分類 進行・再発癌

第5版	2025年1月改訂
登録番号	大腸-8
登録年月日	2013年1月

投与順	抗癌剤名（一般名）	【略語】	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	**エルプラット®** （オキサリプラチン）	L-OHP	100mg/㎡	点滴静注	2時間 （※アレルギーレジメンでは4時間）	d1
2	**エスワンタイホウ®** （テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム）	S-1	80mg/㎡(※1)	経口	1日2回朝夕食後に内服	d1～14

	day	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21									
L-OHP	100mg/㎡	↓																													
S-1	80mg/㎡(※1)	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓																

1コース期間 （次のコースまでの標準期間）	3週間
総コース数	規定なし
コース間での休薬規定	チェックリスト参照

減量規定・中止基準	①蓄積神経毒性：L-OHP減量 ②アレルギー：中止。Grade1～2のアレルギー出現後に再投与する場合には、アレルギーレジメンでの投与を検討する ③その他の毒性の場合：S-1、L-OHPともに減量 （詳細はチェックリスト参照）
投与量の増量規定	なし
投与間隔の短縮規定	なし
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	L-OHPを投与した日の夕食後からS-1の服用を開始し14日間服用、7日間休薬。
プレメディケーション	デキサメタゾン注9.9mg、クロルフェニラミン注5mg、パロノセトロン注0.75mg点滴静注 （※アレルギーレジメン：デキサメタゾン注16.5mg、クロルフェニラミン注5mg、パロノセトロン注0.75mg、ファモチジン注20mg）

主な副作用とその対策	神経毒性に対し、stop and go strategy を採用することもある。Grade3～4のアレルギーはL-OHP永久中止とする。
患者条件	チェックリスト参照
除外規定	①重い末梢神経障害がある患者 ②感染症 ③経口摂取が不能な患者 ④PS3～4
実施上の注意点	

備考	切除不能・転移再発大腸癌に対する標準療法のひとつ。
治療成績	SOX vs. XELOX：第Ⅲ試験の結果では主要評価項目であるFPSにてXELOXに対する非劣性が示された。SOFT試験ではL-OHPの投与量は130mg/m2であったが、胃癌のG-SOX試験等その後の臨床試験におけるSOX療法のL-OHPの投与量は100mg/m2で行われていることが多い。
その他	※1 S-1は体表面積に合わせて初回投与量を調節する。 1.25m2未満→80mg/day 1.25～1.5m2→100mg/day 1.5m2以上→120mg/day 投与2回目以降は減量規定に合わせて投与量を調節する。

参考文献 南江堂 リスク別 がん化学療法レジメン 改訂第2版
大鵬薬品 TS-1適正使用ガイド
ヤクルト エルプラット適正使用ガイド